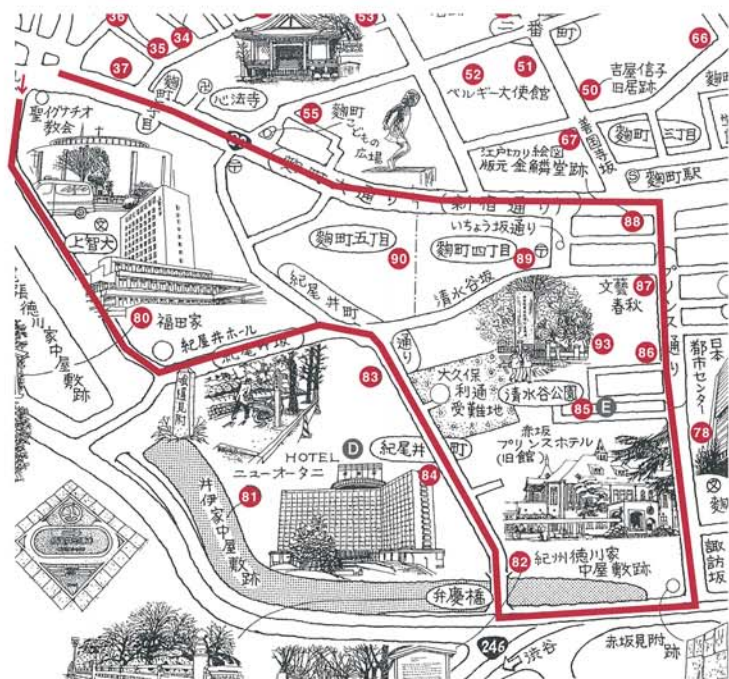


**E** 散歩道・Eコース  
 <紀尾井町・麴町大通り>



2世 尾上松緑

この散歩も、スタート→は四ッ谷駅から。麴町大通りを半蔵門に向かって右側は、麴町六丁目、さらにその奥一帯は紀尾井町が大きく広がります。現代的なデザインのイグナチオ教会は、昭和11年(1936)に麴町教会として創立。現在の教会は、平成10年(1998)に新築されています。高層校舎が建つ上智大学は、明治44年(1911)にイエズス会宣教師によって創設されています。桜の頃になると賑わう土手沿いの道は、大学名に因んでソフィア通りと名付けられて

います。このあたりは江戸時代、御三家の一つである尾張徳川藩80の中屋敷があった場所。有名な料亭福田屋や音楽の殿堂紀尾井ホールもこの一帯に。その東側は、江戸時代以前から初期にかけて吉原の前身だった場所とか。ホテルニューオータニのある広大な一帯は井伊藩81の中屋敷でした。紀尾井坂を下って弁慶橋の方へ折れると、現在イタリアのブランド、アルマーニが入っているビルあたりに、2世尾上松緑83の屋敷がありました。このあたりには、初代水谷八重子84が戦後住んでいた家などが連なっていました。



初代水谷八重子

ウォーキング・データ

距離：2.6km 3250歩(歩幅80cm)  
 所要時間：50分(ゆっくり歩いて)

※くわしい人物紹介は、WEBサイト「麴町界隈わがまち人物館」で!

**す** でっかり整備され都心のオアシスとなっている清水谷公園の中には、大久保利通が襲われた大きな記念碑が建っています。グランドプリンスホテル赤坂の敷地は、紀州徳川藩82の中屋敷であった場所。紀尾井町の名が、紀伊、尾張、井伊の頭文字をとって名付けられたというのをご存知ですね。プリンスホテルの旧館は、朝鮮最後の王朝であった李王家の元邸宅でした。設計は宮内省内匠寮によるものでチューダー・ゴシック調の建物は貴重です。その隣はかつて宮内庁の官舎があった場所。昭和天皇の侍従長だった入江相政も、ここに住んでいました。その先に、コの字形になった道がありますが、ここの奥に幸田延85の家がありました。幸田延は、東京音楽学校の教授で、日本での西洋音楽の基礎を築いた女性です。さらにその先には、明治薬科大学の会館がありますが、ここはかつて同大学の前身だった明治薬科学校86の校舎があった場所。また初代水谷八重子が育ち、結婚した守田勘弥と新婚生活を送った場所もこのあたり。現・八重子が生まれ育った場所でもあります。



幸田延

その先には現在、文藝春秋社87の建物が建っていますが、この付近は場所は特定できませんが、文春ゆかりの人たちが多く住んでいました。紀尾井町3番地には、直木賞でその名を残す時代小説家の直木三十五88、その盟友の作家で戦後は文春の社長にもなった佐佐木茂索、その妻の作家ささきふさ、さらに中国文学者の奥野信太郎93はこの地で生まれています。向側のブロックの麴町三丁目3番地には、東京裁判の弁護人で戦後



直木三十五

は衆議院議長も務めた清瀬一郎の家がありました。

**麴** 町大通りを出て三菱東京UFJ銀行あたりには、幕末の頃、江戸の町の切り絵図をつくって大当たりした版元の金鱗堂尾張屋清七89の店があった場所。その先のセリエビルは、戦前、少女たちの人気のだった挿絵画家中原淳一のお店「ひまわり」がありました。さらにいちょう坂通りの海事ビルあたりには、戦後の一時期17世中村勘三郎90一家が住んでいました。女優波乃久里子や現・勘三郎もここで育ったのです。

麴町大通りを四ッ谷方面に向かい右側にある参議院議員宿舎のあたりは、明治初年は衆議院議長を務めた近衛篤磨の桜木邸といわれた屋敷があった場所。ここで、指揮者・作曲家の近衛秀麿91が生まれ育っています。洋画家の黒田清輝も、幼少の頃はこの付近で育ったともいわれています。



近衛秀麿